

北見から福山へ、 そして、北見に戻る



北見医師会
眼科・はっとり医院

菅原 亮一

今年が4度目の年男となる眼科医です。2017年3月に大学卒業後から20年間所属した旭川医大眼科医局を退局するとともに約9年間勤務した北見赤十字病院を退職し、広島県福山市の眼科クリニックに勤務することとなり、一家4人で出身地でもある北見市を離れ福山市に転居しました。福山には大学の野球部に福山出身の同期生がおり、岡山県倉敷市で開催された全医体の帰りに訪れたことがあったこと以外縁もゆかりもない土地でしたが、退局後の就職先を探していた際に求人情報であるクリニックが目にとまり、実際に見学と面談をさせていただいた印象がとても良かったのでお世話になることに決めました。私は北見市、妻は津別町と二人ともオホーツク管内の出身で、互いの両親も同管内在住ですが、当時、私としては良い就職先があれば全国どこへでも行くという気持ちでおりまして、気に入った土地があれば永住するという覚悟での転居でした。

福山市は人口が約46万人の広島県第二の都市で広島県と岡山県の県境に位置します。徳川家康の従兄弟水野勝成が築いた城下町としての歴史がありますが、現在は世界有数の規模を誇るJFEスチール(株)西日本製鉄所が町の経済の中心にあります。瀬戸内海に面した鞆の浦(とものうら)は、万葉集でも詠まれているかつて栄えた港の風情ある景色を今も残している景勝地で、ドラマや映画の撮影地としても有名です。まず駅に降り立つと目の前に福山城がそびえ立っており、歴史のある町であることを実感します。城下町らしく市内には所狭しと民家が立ち並んでおり、決して広いとは言えない土地の中に、たくさんの人々のエネルギーが凝縮されているような印象を受けます。福山は起業の精神にあふれた町ともいわれているようで、福山通運、洋服の青山、作業服のジーベックなど全国的にも有名な数々の企業が生まれています。私が道産子でのんびりしすぎているからかもしれませんが、福山の人々は独立自尊の精神が強く、歴史と伝統を重んじつつも新しい物事を積極的に取り入れようとする前向きな気持ちが強いという印象を受けました。私が就職したクリニックも最先端の医療をどんどん取り入れて前進し続けており、しかも院長先生は決して営利主義ではなく、ご自身のふるさとの人々が東京や大阪に行かなくとも最新、最良の医療を受けられるようにしてあげたいという熱い思いで真摯に医療に取り組まれていました。さらにはその姿勢はすべてのスタッフに

もまさにONE TEAMで見事に浸透しており、大変な衝撃と感銘を受けました。

自分も家族もそのような環境で生活しあるいは仕事をしていく中で多くのことを学ぶことができたと思っていますが、同時に自分の心の中には決して眼科医療が十分とは言えない自分のふるさと北見、オホーツクのことが常に浮かんできました。残りの人生は院長先生のようにふるさとのために尽力することが自分にとっては最良のかたちなのではないだろうかという思いが強くなっていきました。かなり悩みましたが、既に新たなスタートを切るには厳しい年齢になってきており、少しでも早く決断しスピード感をもって行動しなければならぬと考え、ふるさとに戻ることを決意しました。たった1年と4ヵ月という短い期間の勤務となってしまう、結果的に大変なご迷惑をおかけすることになりました。雇っていただいた院長先生には大変申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、院長先生は、クリニックで学んだ精神を胸にふるさとに戻ると私の気持ちを理解してくださり、快く送り出してくださいました。見ず知らずの土地に一家4人で引っ越してきて住宅のことや家族の生活や子供たちの学校のことなど、本当に親身になって相談に乗っていただき最後の最後まで面倒を見てくださった院長先生、事務長様、スタッフの皆様には今なお言葉で言い尽くせないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。医師としてのポテンシャルが違いすぎて院長先生の真似は到底できませんが、自分なりにできることを精一杯やって、ふるさとオホーツクに少しでも良い眼科医療を提供できるよう北見の地に根を下ろして頑張っていきたいと考えております。随分と遠回りしましたが、自分の志を実現するために、年男の今年2020年は大きく飛躍する年にしたいと思っています。



福山市鞆の浦『常夜燈』にて